普　及

「鳳春(ほうしゅん)」「展茗(てんみょう)」の幼木期における仕立て方法

農林センター　茶業研究所

要　旨

「鳳春」及び「展茗」は、幼木期の仕立て管理において、摘採機による摘採を前提とした場合、新仕立て法（定植２年目の夏、３年目の春に前回せん枝位置 10cm 上でせん枝し、慣行に比べ１節程度多く残す）を行うことで、慣行仕立て法（同時期に前回せん枝位置 5cm 上でせん枝）に比較して、株張り及び摘採面積が３割程度拡大し、早期成園化が可能となる。

成果の概要

①新仕立て法により「鳳春」では、初期の株張り及び摘採面積が大きく、早期成園化の利点がある（表２、図１）。

②新仕立て法では、本来芽数が少なくなりやすい品種である「展茗」において、より多くの新芽数が確保できる（表２）。

③一般的に「鳳春」及び「展茗」のような直立性品種は低く仕立てられるが、①、②から両品種の幼木期には、慣行より１節程度多く残す新仕立て法が適する。

表1　せん枝の時期及び高さ　(cm)

処理	定植時	2年目	3年目	
	平成18年4月	平成19年6月	平成20年3月	平成20年7月
新仕立て法	実施*（20）	+10（30）	+10（40）	+5（45）
慣行仕立て法	実施*（20）	+5（25）	+5（30）	+5（35）

＊ 定植直後にせん枝し、樹高20cmに揃えた
1）数字の前の「+」は前回せん枝面から上方を示す
2）カッコ内の数字はせん枝後の樹高を示す

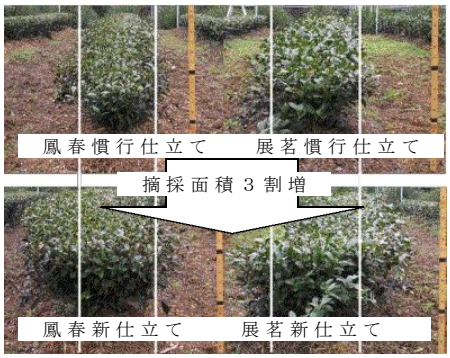

図1　各試験区の摘採面比較

表2　各仕立て法による樹形、一番茶新芽の形質および収量

品種	試験区	樹高* (cm)	株張り* (cm)	新芽数 (本)	百芽重 (g)	摘採面積 (m2)	単位収量 (g/m2)
鳳春	新仕立て法	87.0	120.0	48.2	47.3	15.4	299.0
	慣行仕立て法	76.0	84.0	60.6	48.8	11.3	234.0
展茗	新仕立て法	89.0	99.0	64.0	46.3	13.4	339.0
	慣行仕立て法	67.0	75.0	34.0	72.6	10.4	262.0

*:平成20年9月調査
1）鳳春：萌芽期平成22年3月19日、枠摘み5月5日、新芽数は20cm枠内本数、摘採日5月6日
2）展茗：萌芽期平成22年4月9日、枠摘み5月6日、新芽数は20cm枠内本数、摘採日5月7日
3）全試験区において、うね幅180cm、うね長40m/区で実施

（問合せ先：
0774-22-5577）